

諸輪中学校の校庭の下には、平安時代頃に「やきもの」を焼いていた窯跡(かまあと)があります。

開校前の昭和57年に発掘調査がされました。そのときの経緯や所在位置、出土品などについて、「東郷の歴史シリーズ」の中で何回かに分けてご紹介していきます。

発掘調査は東郷町教育委員会の主催で昭和57年7月21日(水)から同月31日(土)まで、雨天を除き連日午前9時から午後4時まで行われました。

1 窯跡

昭和57年4月28日(水)に2基(1号窯・2号窯)が発見され、続いて7月に1基(3号窯)が発見されました。

1号窯と2号窯は平安末期(12世紀頃)のもので、遺物として施釉の痕跡のある「山茶碗」が出土しています。3号窯からは、平安初・中期頃のものと思われる瓷器「甕・壺」の破片が出土しています。3基とも分炎柱を設けた構造の窯でした。



(写真左側: 1号窯、写真右側: 2号窯)

2 調査体制

この発掘調査は、翌年春の諸輪中学校開校に向けての準備中に学校敷地予定地内(諸輪字後山60番地地内)で窯跡が発見されたため、調査に要する経費は予算化されていませんでした。

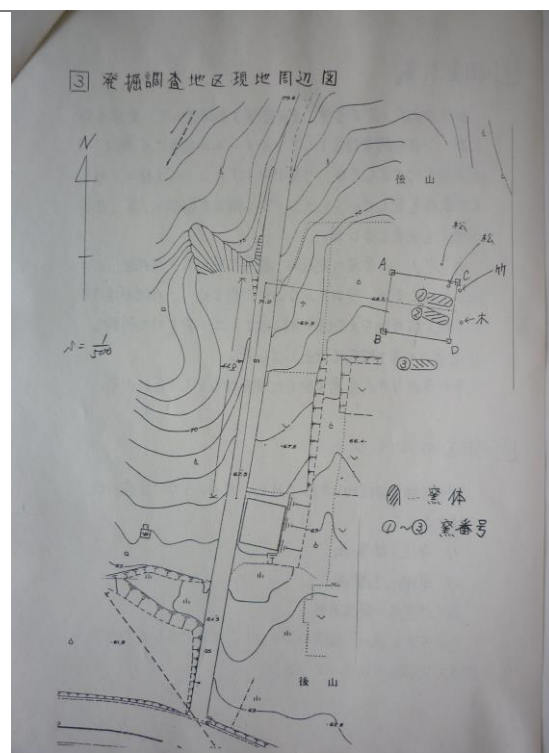
そのため歴史講座受講者や町文化協会郷土史部、東郷中学校郷土史部等ボランティアの協力を得て実施されました。

3 調査対象区域と経緯の概要

当初は、2基を調査対象として、事前に15メートル四方に木杭(A・B・C・D)を打って発掘調査区域を定めていましたが、少し南側で3基目の窯跡が発見されたために、調査区域の見直しを要しました。

また窯跡は、通常「窯のたき口付近」から手前側に灰原が続いているものですが、第1号窯・第2号窯の灰原が見当たりませんでした。

埋め立てられる前は畑であったと伝えられているので、その頃に削られてしまったものと判断し、たき口付近(木杭A・B寄り)の表土除去は中止して、第3号窯の調査が並行して進められました。



(現地位置図)

4 調査の進め方と係分担

(1)発掘・採集

出土品の整理・復元の便を考慮し、発掘区を1メートルの方眼状に区切り、各区画ごとに人員を配置して調査が実施されました。

(2)運搬・洗浄

洗浄場所(諸輪小学校)への出土品の移送には一輪車が用いられ、発掘区画を表示した竹箕あるいはトロ箱が使用されました。

(3)付記号・袋詰め

洗浄後は天日乾燥し、十分に乾かした後にサインペン(黒)で記号を書き込んでいます。

記入例:「UA1-1」

記号の意味 「U」:「後山」の意。

「A1」:発掘区画を示す。

「1」:区画内の出土品

番号を示す。



(写真:3号窯)

出土品のうち破片は、土のう袋にいれ、袋がいっぱいになるか、または一つの区画分が全部入ってしまったら口元を縛り、発掘区の記号と破片の点数を袋の表面にマジックで記載。完形品(成形成品)は、袋ではなくトロ箱に入れて箱側面に記号と点数をマジックで記載し。

5 発掘日誌から

7月21日 1号・2号・3号とも「焚口(たきぐち)」から底面、壁をたどって土の除去。2号窯から大量の山茶碗が出土。

3号窯で分炎柱が出現するとともに大型陶器類の破片も出土。

7月22日 作業の煩雑を防ぐため、当面は2号窯のみを調査対象とする。

2号窯で分炎柱が出現。

7月23日 2号窯の全容がほぼ現れた。重ね焼き状態で出土したものは、生焼け状態で柔らかい。祭祀用具と思われる「子持ち器台」が出土。

7月26日 3号窯の表土除去を行う。自然釉のついた碗片1点と須恵器鉢類と思われる口縁部の破片1点出土。



(写真:子持ち器台)



7月27日 1号窯で分炎柱が出現。1号窯から2号と同じ碗類の出土品が少々あり。

2号窯から小皿2枚付きの「子持ち器台」と全く焼かれていないに等しい重ね焼きの碗多数出土。

(…次号に続く…)

(写真:2号窯 碗出土状況)